

公共図書館でつなげる「わいわい文庫」

新宿区立戸山図書館
谷口 絵莉子

新宿区立戸山図書館について

当館は、区立図書館における障害者サービスの拠点館として、障害者をはじめとした本をそのままでは利用できない方のために、さまざまなサービスを実施しています。音声のみの録音図書“DAISY”の貸し出しのほか、対面朗読や来館が困難な方のための家庭配本サービス、誰もが楽しめるLLブックやマルチメディアDAISY図書の収集・貸出も行っていきます。

また、ボランティア団体と協力して音声DAISYやテキストデータ、テキストDAISYも製作し、リクエストには積極的にお応えしています。例年、伊藤忠記念財団よりお送りいただいている「わいわい文庫」マルチメディアDAISY図書を蔵書として受け入れ、幅広い方々に情報を届けるためのさまざまな工夫を行っています。

今回のねらい

学校現場におけるマルチメディアDAISY図書の周知はまだ充分には広

がっておらず、公共図書館の電子書籍導入率も伸びてはいるものの高くない現状では、公共図書館からもマルチメディアDAISY図書を広めていく必要があります。

そのために、これまで一般の来館者や子どもたちにアピールしたり、図書館スタッフへの研修を行うなど多方面へのアプローチを行ってきました。これに続き、図書館からの発信をさらに強めるため、今回は3つの事例を実施しました。

事例紹介

(1) カウンター前展示の更新

- ・期間：通年
- ・内容：「わいわい文庫」青版のデータが入ったタブレット端末の展示。「わいわい文庫」ほか一般にも貸出可能なマルチメディアDAISY図書の展示トラックを更新。「使ってみよう！マルチメディアDAISY」紹介パスファインダーを刷新・配布。

2020年版を展示内容に反映し、パスファインダー（調べもの図書紹介リスト）も見やすく調整、目を引くために

パネルを使ってディスプレイしました。タブレット端末はスタンドに固定し、立ち寄った利用者が自由にお読みいただける形にしました。また、11月より当館でヘレン・ケラー生誕140周年を記念した企画展示を行っており、12月の障害者週間と合わせて、障害について知る機会を増やすとともに、マルチメディアDAISY図書の存在をアピールしました。

コロナ禍の最中であり、長時間の説明やご利用はむずかしい中、短時間でもマルチメディアDAISY図書にふれる機会作りをすることができました。



マルチメディアDAISY図書コーナー



館内のヘレン・ケラー展示

(2) 図書館スタッフへの研修

新宿区では、区立図書館全館にマルチメディアDAISY図書を配置していますが、時間が経つと説明できるスタッフの知識や経験が不十分になりがちです。今年度は、戸山図書館の一部担当者に向けた研修を実施しました。

・開催日時：

2020年10月15日（木）14:00～15:30、
11月19日（木）10:00～11:30

・参加人数：各2名（1日目 児童サービス担当者、2日目 障害者サービス担当者）

・内容：児童サービス担当者には、基礎知識と関連する著作権法、タブレット端末へのデータ転送方法や、マルチメディアDAISY教科書について紹介。児童サービス担当は、平時には病院や障害幼児一時保育所などを訪問して出張おはなし会を行っていることや、図書館を使った調べる学習を推進するために学校を訪問することも多いため、必要な知識を身につけてもらい、それぞれの施設のニーズをくんだり働きかけてもらうよう促しつつ、相談窓口として対応できるよう説明しました。

障害者サービス担当者には、基本的な知識をふまえたデータの扱いとタブレット端末への転送方法、さまざまな

パターンでの利用方法やホームページなどを教え、来館者の問い合わせにいつでも対応できるようにしました。



スタッフ研修の様子

(3) 新宿区立戸山図書館での「マルチメディアDAISYおはなし会」

戸山図書館では恒例となったマルチメディアDAISYおはなし会を年度内に1回実施しました。

- ・開催日時：2020年12月12日（土）
11：00～12：00
- ・場所：戸山図書館 児童室
- ・参加人数：こども3人 大人2人
計：5人
- ・内容：わいわい文庫2020より『いちまるとふしぎな手』、『海の中をのぞいてみよう7』、2018より『てんてん！』を児童室の一角を使って上映。
新型コロナウイルス感染拡大を受け、通常のおはなし会も規模を縮小していましたが、なんとか12月に実施することができました。可能な限り予防策を行い、座れるシートの間隔を空けています。プロジェクターを使ってホワイ

トボードにPCの画面を投影し、初めは物語を流しました。予約者が集まらなかったため、流すだけにしていただけのところ興味をもった子どもたちが数名集まってきました。一人は小さな子どもだったため、集中できずに席を立ってしまいましたが、二人は最後まで参加し、うち一人に『海の中をのぞいてみよう7』をもう一度見せてほしいとリクエストされ、2回再生しました。二人の子どもは、頭から終わりまで通して楽しんで文字を追っていました。『てんてん！』によるクイズなども反応がよく、好感触のまま終わることができました。

なお、昨年の活用術で実施予定だった角筈・下落合図書館における事例紹介は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地域館同士の連携をとることができなかつたため、また状況が改善される時期を見計らい、改めて実施することを考えています。



マルチメディアDAISYおはなし会の様子

体験してみよう！
マルチメディアデイジーの
おはなし会

12月12日（土曜日）
11：00～11：30
会場：戸山図書館児童室

マルチメディアDAISYとは…

- 読んでいる部分にハイライトを入れる
- 文字の大きさを調節する
- 読心声の速さや大きさの調節
- 文字や背景の色を変更する

などができる音声付きの電子書籍です。
白い背景に黒い字が読みづらい、
もっと文字を大きくしたい、
といった場合にも対応できます！

11月27日（金曜日）より予約受付開始
どなたでも。3組まで。
お問い合わせは、戸山図書館カウンター
またはお電話にて（☎03-3207-1191）

Toyama Library
指定管理者：TRC宮崎館流通センター

マルチメディアDAISYおはなし会のポスター

今後の展望

現状のコロナ禍においても区内の来館者は途切れないため、展示などによる周知は引き続き実施していきます。人に読み聞かせをしてもらえる機会を

得るのがむずかしくなっている昨今において、電子書籍やマルチメディアDAISY図書は、さらに広がることが考えられます。スタッフ研修を通して、今後は地域にある医療機関や福祉施設とも連携を取り、なかなか手が回らない現場に、わいわい文庫をより有効な資料として届けられるよう工夫したいと考えています。

今回、わいわい文庫を通して地域の連携による可能性を探ることができ、有意義な研究となりました。また今年には医療機関や学生などから質問を受けることもあり、わいわい文庫などの取扱いや貸出方法、活用法などを伝えていくことも肝要と考えています。今後ますます必要とされていくマルチメディアDAISY図書の普及活動を途切れず推進するべく、さまざまなアプローチを試みて参ります。

